

平成13年「都民のくらしむき」

概要

平成13年の消費は総じて低迷し、実質国内総生産は前年に比べ0.6%の減となった。消費者物価（東京都区部）は0.9%下落した。また13年は、9月に狂牛病が発生し、不当表示など食品関連事件が続き、海外でも米同時多発テロがあった。

注）消費者物価は持家の帰属家賃除く。

勤労者の給与をみると、平成13年の月間現金給与総額は前年に比べ1.9%の減となった（東京都の賃金、労働時間及び雇用の動き - 毎月勤労統計調査地方集計結果：事業所規模5人以上）。東京都の完全失業率は5.2%で、12年に比べ0.2ポイントの上昇となり（東京の労働力調査地方集計結果）、企業倒産件数も集計開始(1981年)以来最も多い3,586件となり、平成12年に比べ10.1%の増となった（東京都内企業倒産集計-帝国データバンク）。

このような状況のなかで平成13年の都民のくらしむきは、全般的には以下のようになっている。詳しくは「世帯の動向」を参照されたい。

〔全世帯〕 消費支出は2年ぶりに減少した。

〔勤労者世帯〕 実収入・可処分所得ともに減少した。

〔無職世帯〕 消費支出が可処分所得を上回り、預金取り崩しなどで補っている。

平成13年の都民のくらしのむきの特徴をとらえるため、30代、40代という年代別の平均像（勤労者世帯と無職世帯）と年間の消費費目の変動を分析した。

年代別勤労者世帯と無職世帯の1世帯当たり1か月平均の収入と支出

1 次ページ表 参照

2 無職世帯のうち、高齢者世帯（夫が65歳、妻60歳以上又は18歳未満の子が加わった世帯）を分析した。

3 収入：勤め先世帯主収入（ボーナス含む） 支出：世帯の生計支出

〔勤労者世帯〕

30歳未満の世帯：家賃負担

収入：346,348円 支出：275,536円

30歳未満の世帯では、住居支出が63,661円で全年代を通じ最も多い。家賃地代が63,045円となり（第20表）、収入に占める割合は18.2%と非常に高い。この年代の世帯は、食料をはじめ多くの費目で支出が少なく、家賃負担が家計全般に影響を与えていることが感じられる。

30代の世帯：土地家屋購入

収入：505,941円 支出：373,307円

消費支出では大きな特徴は現れず、すべてが平均的といえる。しかし、土地家屋購入は、全ての年代を通じ最も大きく、土地家屋購入についての中心的な年代といえる。住宅ローンについては、本格的な返済が開始する年代となっている（表（参考）土地家屋借金返済）。

40代の世帯：教育・住宅ローン

収入：624,296円 支出：445,401円

40代は家族（世帯人員）が多く、収入も多い分、支出も多い。食料をはじめとして全年代を通じ

て最も支出が大きい費目が多い。特に教育に関する支出は際立って大きく、40代がピークとなっている。また、土地家屋購入も30代に次いで大きい。住宅ローン負担額は全世代の中で最も多くなっている。

50代の世帯：比較的余裕

収入：601,457円 支出：424,234円

この年代では住宅ローンの収入に対する比率は5.3%で、40代に比べ大きく減少している。

支出では、「その他の消費支出」が全世代の中で最も大きい。ここには、美容などの諸雑費の他、こづかい、贈与金などの交際費が含まれている。また、家族の減少にもかかわらず、被服及び履物の支出も大きい。どちらも嗜好的で選択的な品目の多い費目であり、勤労者の50代は他の年代に比べ余裕が感じられる。

60歳以上の世帯：リフォーム

収入：351,444円 支出：361,006円

勤労者で世帯主が60歳以上の世帯では、収入が大きく減少している。家族の数も少なくなり、食料など消費支出も基本的に減少している。しかし、住居の支出が際立って大きくなっている。これは、30歳未満の次の大きさと、住宅の修繕、リフォームへの支出が増加している（第20表）。教育に関する消費支出はほとんどなくなり、保健医療が増加している。

〔無職世帯〕

高齢者世帯：質の高い消費

収入：—円 支出：269,277円

無職高齢者世帯は、勤め先がなく年金が生活の基礎となっている世帯であり、退職した勤労者のほか自営の事業から身を引いた世帯などが含まれる。

この世帯は、消費全般で支出が少なくなっている。しかし、食料や教養娯楽など、2人家族が大部分の無職高齢者世帯の方が、家族数がより多い30歳未満世帯より多い。このことから、平均像としての無職高齢者世帯は、比較的質の高い消費生活をしていることが想定できる。

保健医療の支出については、全世代の中で最も大きくなっている。

月別1世帯当たり1か月間の消費支出（全世帯）

都民の一年間の消費支出では、表 にみるように月による変動があり、年間の最大支出が12月になっていることがひとつの特徴といえる。

費目の変化では、教育、家具・家事用品、被服及び履物、保健医療の変動幅が大きい。

年を通じて最も季節要因が示されるのは教育であり、4月に突出している。このことは、先の年代別の支出動向と考えあわせると、40代世帯では、4月の教育費支出が大きな負担となることを示している。（図 ）

家具・家事用品は7月と12月にピークをつくっているが、収入（ボーナス）の要因によるものと考えられる。保健医療の支出の動きは、季節の変わり目（3月・6月・12月）に多くなっている。

その他の消費支出（理容・美容などの雑費の他こづかいや交際費を含む。）の変動幅も大きく、12月の支出が大きい。

一方、交通・通信や食料は、変化が比較的小さい。教養娯楽も比較的変動幅が小さいが、この費目の30%弱を占める（第10表参照）宿泊料とパック旅行費（（参考）旅行）をみると、季節的な変化がみられる。夏、春の学校の季節休暇のほか、行楽の秋に旅行をする都民のくらしが感じられる。

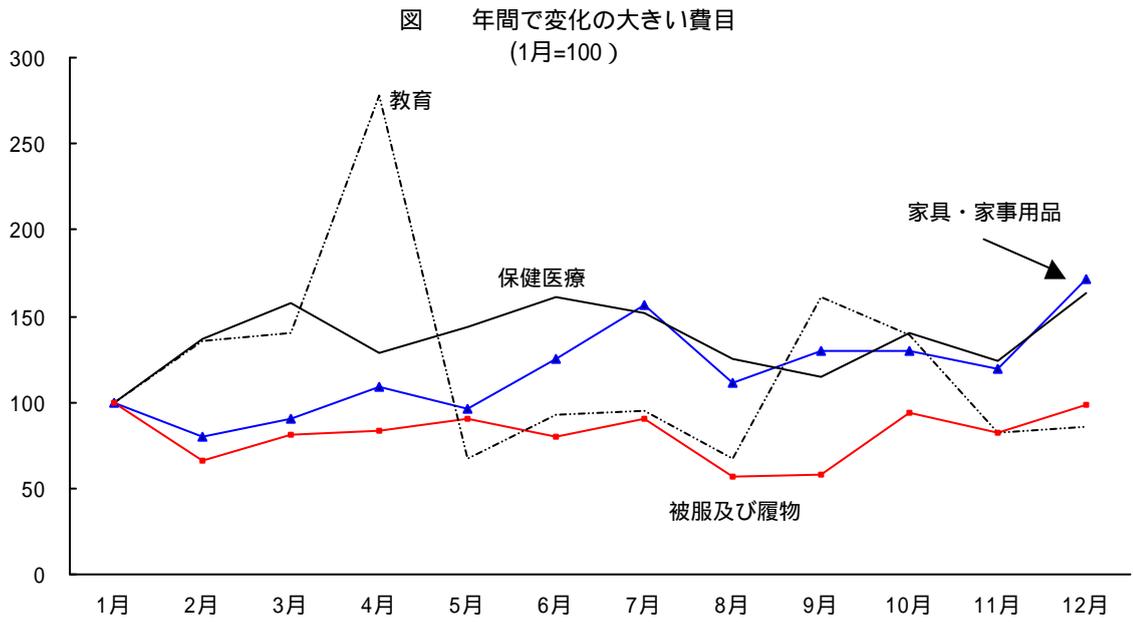


表 勤労者世帯と無職世帯の1世帯当たり年平均1か月の収入と支出

- 1 第20表、第32表より作成。30～50代は5歳階級を加重平均した。
- 2 勤め先世帯主収入は、ボーナスも含まれる。
- 3 住居には、家賃、修繕、リフォームが含まれる。
- 4 その他の消費支出には、美容などの諸雑費、こづかい、贈与金など交際費が含まれる。
- 5 土地家屋購入は当該年に自己資金・借金により購入した額。土地家屋借金返済は過去の購入時に借用したローンの返済。60歳～65歳：46,262円 65歳以上：14,929円（第20表）。

区 分	勤労者世帯						無職世帯
	平均	世帯主 30歳未満	世帯主 30代	世帯主 40代	世帯主 50代	世帯主 60歳以上	高齢者世帯
世帯人員 (人)	3.40	2.83	3.37	3.80	3.51	2.72	2.02
世帯主平均年齢 (歳)	46.4	27.3	35.4	44.7	54.7	64.9	74.1
勤め先世帯主収入 (円)	533,938	346,348	505,941	624,296	601,457	351,444	-
生計支出 (円)	398,875	275,536	373,307	445,401	424,234	361,006	269,277
消費支出	364,721	274,236	308,763	403,797	405,407	361,006	266,651
食料	79,843	54,758	66,566	90,648	88,311	79,937	65,988
住居	37,553	63,661	42,569	26,477	30,160	53,225	21,328
光熱・水道	22,348	15,172	18,696	24,560	25,095	23,169	19,734
家具・家事用品	12,135	8,315	10,556	11,837	14,477	12,950	8,843
被服及び履物	19,597	12,929	16,539	22,363	22,277	17,914	10,204
保健医療	12,148	10,453	10,700	13,748	11,914	13,265	19,633
交通・通信	39,478	34,828	39,319	45,583	37,134	34,349	24,552
教育	25,097	2,738	11,891	43,898	36,995	224	46
教養娯楽	40,769	27,015	37,102	49,653	39,700	38,994	35,576
その他の消費支出	75,752	44,368	54,825	75,030	99,343	87,028	60,747
土地家屋購入	34,154	1,300	64,544	41,605	18,827	-	2,625
(参考) 土地家屋借金返済	35,885	5,440	30,847	52,785	31,801	34,453	1,926

表 月別1世帯当たり1か月間の消費支出（全世帯・平成13年）

付表1「月別1世帯当たり1か月間の用途別生計支出（全世帯）」より作成

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月
消費支出	100.0	95.7	105.4	111.2	100.6	101.6
食料	100.0	102.8	111.2	109.2	114.1	109.8
住居	100.0	102.6	120.9	123.4	94.3	128.8
光熱・水道	100.0	106.8	101.5	95.6	82.9	77.9
家具・家事用品	100.0	80.0	90.5	109.0	96.1	125.0
被服及び履物	100.0	66.0	81.2	83.6	90.4	80.1
保健医療	100.0	136.6	157.7	128.8	144.0	161.2
交通・通信	100.0	102.7	100.5	106.6	116.3	112.1
教育	100.0	135.3	140.0	278.0	67.2	92.6
教養娯楽	100.0	103.7	111.5	118.4	114.1	104.6
その他の消費支出	100.0	74.9	91.3	85.8	88.7	84.6
（参考）旅行	100.0	108.9	123.3	156.1	136.4	115.8
項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
消費支出	110.0	101.9	99.3	109.4	95.6	122.1
食料	111.1	112.7	108.7	111.0	106.8	135.9
住居	111.1	106.1	128.9	130.1	104.9	139.7
光熱・水道	74.0	87.1	83.5	83.2	78.8	93.5
家具・家事用品	156.9	111.0	129.3	130.0	119.1	171.3
被服及び履物	90.9	56.9	58.4	93.3	82.5	98.6
保健医療	151.6	124.6	114.9	140.4	124.2	163.8
交通・通信	121.3	117.3	96.5	121.2	98.0	95.1
教育	95.4	66.7	161.0	138.6	82.7	85.5
教養娯楽	138.2	143.9	109.3	129.7	102.9	122.3
その他の消費支出	101.0	87.2	76.2	88.1	83.2	126.3
（参考）旅行	259.1	307.2	136.0	177.4	111.5	105.5